

2022年度 学校関係者評価

【 専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価 】



学校法人シモゾノ学園
大宮国際動物専門学校

【 2022年(令和4年) 8月31日 】

1. 学校関係者評価委員会の概要

■ 学校関係者評価委員

- | | |
|---|---------------|
| <input type="checkbox"/> 國分 達夫 氏 (東京実業高等学校 校長) (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) | 高校等評価委員 (委員長) |
| <input type="checkbox"/> 齊藤 勉 氏 (多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 高島 一昭 氏 (公益財団法人 動物臨床医学研究所 理事・所長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 豊野 智代子 氏 (株式会社ブラッツ) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 出口 彩香 氏 (卒業生) (株式会社ユアペティア ドッグトレーナー マネージャー) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 小原 美香 氏 (保護者) | 保護者等評価委員 |

■ 2022年度 第1回 学校関係者評価委員会

- 2022年7月12日(火) 15:00から17:00 【本校 会議室 (オンライン形式)】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価の概要説明
 - ③ 委員のご紹介
 - ④ 委員長を選任
 - ⑤ 自己点検・評価のご報告
 - ⑥ 意見交換等
 - ⑦ 次回までの流れ
 - ⑧ 閉式の辞

■ 2022年度 第2回 学校関係者評価委員会

- 2022年8月31日(水) 15:00から17:30 【本校 会議室 (オンライン形式)】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価のまとめ
 - ③ 学校関係者評価のまとめを踏まえた、意見交換等
 - ④ 閉式の辞

2. 自己点検・評価 の 評価方法 及び エビデンス について

■ 評価は、4段階で行う。

- 評価項目に対し、専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価指標に則って評価を行う。
- 【3-15】・【4-4】・【5-9】・【11-1】について、本校の取り組み指針を踏まえ、本校は評価指標の3評価を4評価とする。
- 【3-17】・【6-7】・【8-3】・【9-4】について、評価指標の最高値は3評価までであるが、表記は4評価とする。

■ エビデンスは、評価の根拠となる資料を多くて3つ程度まで選ぶ。

1. 教育理念・目標		評価	エビデンス
1-1	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育人財像は明確に定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか。)	4	学則、学校案内書、教育課程編成委員会 議事録
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4	学校案内書、教育課程編成委員会 議事録、卒業生状況調査書
1-3	学校の理念・目的・育人財像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会 案内・説明PP・レジュメ、学校関係者評価委員会 議事録

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 【1-2】(4/4評価) について、卒業生の受け入れ先からのご意見を広く受け取れるように、「卒業生状況調査書」をより活用する。
 - 【1-3】(4/4評価) について、保護者への周知度を向上すべく、「学生の手引き」を保護者にも配布する取り組みを実施する。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム④ 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

2. 学校運営		評価	エビデンス
2-1	教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4	教育計画(美容学科)、教育課程編成委員会 議事録、教職員研修日 アジェンダ
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。(教務・財務の意思決定システム制度は整備されているか。)	4	寄附行為、理事会・評議員会 議事録、学園本部会議 議事録、組織分掌図
2-3	学校運営に関する(事業計画・予算編成・教育活動等)に対する評価を結論として取りまとめた評価報告書を作成しているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(画面の画像)、教職員研修 資料(兼任教職員 全体会 2019年度・2021年度)
2-4	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、人事・給与に関する規程も含め、有効に機能しているか。	4	寄附行為、組織分掌図、就業規則、理事会 議事録
2-5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	学校運営指針、組織分掌図、学校関係者評価 報告書
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(情報公開ページ 画面の画像)、卒業率向上に関する取り組みの報告書(Uターン・ターンセミナー)

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【2-6】(4/4評価) について、学校関係者評価委員会からのご提案等をもとに実施した教育活動の資料をエビデンスに加えることを提案する。

3. 教育活動		評価	エビデンス
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教職員クレド、学校案内書、学生の手引き
3-2	教育理念・育人財像・業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開(様式4)
3-3	教育理念・到達目標に沿って、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開(様式4)
3-4	講義 及び 実習 に関するシラバスは作成されているか。	3	シラバス・教育担当者のまとめ、コアカリキュラム
3-5	学生によるアンケート等をもとに、適切に授業評価を実施しているか。	4	授業参観評価表、授業アンケート(学生)、学外研修アンケート(学生)
3-6	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか。(教育内容 及び その評価方法・手段・スケジュール は適切か。)	4	授業参観評価表、授業参観 スケジュール
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	学校関係者評価委員会 議事録、教育課程編成委員会 議事録、企業連携実習 評価表
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	学生の手引き、校長会議(進級・卒業判定用データ)
3-9	人財育成目標の達成に向け、各授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	学校運営指針(コアコンピテンシー)、教職員 コンピテンシー
3-10	動物看護職関連分野との連携による優れた教員(専任・兼任共に)を確保するための活動が行われているか。	4	教育課程編成委員会 議事録、企業連携研修 契約書・報告書・評価表、学校HP(教職員募集)
3-11	関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や教員の指導力育成等の資質の向上のための取り組みが行われているか。	4	企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教職員研修 報告書
3-12	カリキュラムは、自主学習を含む学習時間・学習方法を学生の生活時間や学習時間に配慮して設計されているか。	4	カリキュラム、クラス別カリキュラム、学生の手引き、年間スケジュール
3-13	講義に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	カリキュラム、コアカリキュラム、情報公開(様式4)
3-14	実習に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラムが実施されているか。	4	カリキュラム、コアカリキュラム、情報公開(様式4)
3-15	講義・実習等の受講前に学生の能力等に不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	4	募集要項、入試面接(入試記録)、学生の手引き
3-16	動物を使用する実習・実験等に関し、これらに関する倫理や動物の福祉についての規則やマニュアルが整備され、公表されているか。	4	学校飼育動物管理規程、学生の手引き、学校HP(教育理念)、学内掲示物(アニマルウェルフェア・動物の逸走防止対策)
3-17	学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定されているか。	4	個人情報管理区分、みんなで取り組む個人情報の管理、学籍管理

【自己点検・評価】

① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について

→ 【3-4】(3/4評価) について、「シラバス・教育担当者のまとめ」及び「各授業科目の開始時に説明している授業概要等」を学園のシラバスとする。今後において、愛玩動物看護師法の施行に伴い、同法にて既定されている授業概要等を踏まえた 本学園のシラバスのベース 及び 各授業科目のシラバスの再整備 を進める。

→ 【3-12】(4/4評価) について、適切な取り組みが行われている。

→ 【3-16】(4/4評価) について、適切な取り組みが行われている。今後において、各取り組みの指導・教育を拡充することで取り組みの質を向上させる。

② 特記事項

→ 特になし。

【内部監査】

① 参加者名 および 実施日時・場所 について

→ 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム②

→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:50 【場所】IAC東京校 会議室

② 監査結果

→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【3-12】(4/4評価) について、新型コロナウイルス感染症により教育活動に臨機応変さが非常に求められる時期において、通常授業の実施に向けた取り組みに加え、代替授業や必要な学生に対するオンライン授業の一部実施等を行い、学生の自ら学ぶ力の醸造に取り組んだことを含め、適切な評価と考える。

→ 【3-16】(4/4評価) について、規程やマニュアル等が整備されており、また、リニューアルした学校HPにも動物福祉についての記載がされていることを確認した。また、動物の逸走防止等についての取り組みを強化する等の取り組みも見受けられ、適切な評価と考える。

4. 学習成果		評価	エビデンス
4-1	年度末における就職率の向上が図られているか。	3	就職率データ(過去3年間)、保護者会資料、未内定学生リスト、学内企業説明会案内、掲示用就職内定数(IAC大宮校)
4-2	資格取得率の向上が図られているか。	4	統一試験補講スケジュール、美容系学科会議 議事録、美容実習 春期講習参加者リスト
4-3	入学者に対する卒業率はどうか。	3	情報公開(様式4)、事業計画 PDCA 会議(学習成果状況報告データ)、卒業率向上会議 議事録、就職セミナー開催案内(Uターン・ターン)
4-4	在校生の社会的な活動に対し、それを把握し、評価する体制があるか。	4	学生の手引き、ボランティア案内書
4-5	学生の学習成果の評価に際して、育成する人財像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか。	4	学生の手引き、校長会議(進級・卒業判定用データ)
4-6	教育・訓練 及び 実習 等を委託する場合、その目的・要望事項・評価項目等の依頼を明確にしているか。	4	企業連携実習 契約書、実習依頼状、実習評価表
4-7	動物看護総合実習等の企業と連携した実習について、依頼先と十分なコミュニケーションをとり、その内容・評価方法を事前に定め、評価しているか。	4	学外インターンシップ実習 依頼書・評価表、企業連携実習 依頼書・評価表、

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
- 【4-1】(3/4評価) について、「過去3年間の実績が就職率100%である」という4評価の指標を満たしていない。引き続き、就職希望者における就職率を年度内に100%とすべく取り組みを継続する。
 - 【4-3】(3/4評価) について、「過去3年間の実績が卒業率95%以上である」という4評価の指標を満たしていない。引き続き、入学者における卒業率を向上できるように日々の取り組みを良化させる。
 - 【4-4】(4/4評価) について、適切な取り組みが行われている。
- ② 特記事項
- 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
- 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:50 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
- 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【4-1】(3/4評価) について、多様な就職支援活動を行っていることをエビデンスから確認でき、就職率が全てではあるが、その取り組み自体は4評価に類する取り組みをしていると考える。
 - 【4-3】(3/4評価) について、校長会議に類する場にて学生の出欠状況を適切に把握するとともに、過去のデータから退学者が生じやすい要素を持つ学生に対して先んじた取り組みを行っていることに加え、コロナ禍によるメンタルフォロー等の個人面談にも注力していることが確認できた。就職率と同様に、卒業率も数字が全てではあるが、これらの取り組みが成果につながることを期待している。

5. 学生支援		評価	エビデンス
5-1	進路や就職に関する支援体制が整備され、学生や保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、学内企業説明会リスト、保護者会資料、学科教室掲出物(就職ボード)
5-2	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	4	年間スケジュール(健康診断スケジュール)、提携病院 契約書、救急技能講習 受講リスト
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	募集要項、学生の手引き、下園龍二記念 奨学生(名簿)、家族入学支援奨学生(名簿)、学習成果の報告(事業計画PDCA会議の資料)
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。(相談窓口が設置されているか。)	4	カウンセリングルーム 案内、カウンセリング記録、学生相談 報告書
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	学生の手引き、課外活動・サークル活動申請書
5-6	学生の生活環境への支援体制は整備されているか。	4	学校案内書(学生会館案内・学生マンション案内)、学校運営指針
5-7	保護者との連携は適切に行えているか。	4	学校運営指針(問い合わせ対応の指針)、保護者会案内書、学校HP(在校生用ページ)
5-8	卒業生への支援体制は整備されているか。	4	卒業教育セミナー 案内書・報告書、学校HP(卒業生向け求人票ページ)、学校関係者評価委員会 議事録、卒業生 来校者名簿・来校時アンケート
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	募集要項、学校運営指針
5-10	高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。	4	職業体験受け入れ関連書類、高校ガイドンス一覧

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
- 【5-3】(4/4評価) について、公的な支援体制に加え、学園独自の支援制度も整備・活用させていることから適切な取り組みが行われている。
 - 【5-8】(4/4評価) について、適切な取り組みが行われている。今後において、より多くの卒業生に参加してもらえるよう取り組むとともに、より卒業生のお役に立てる活動を試案する。
 - 【5-10】(4/4評価) について、適切な取り組みが行われている。
- ② 特記事項
- 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
- 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:50 ~ 14:10 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
- 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【5-3】(4/4評価) 及び 【5-8】(4/4評価) について、エビデンスの追加を提案する。

6. 教育環境		評価	エビデンス
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか。	4	施設使用割当て表、組織分掌図
6-2	防災に対する体制は整備されているか。	4	災害対応マニュアル、防災・避難訓練実施要項、防災・避難訓練 報告・改善書
6-3	実習室には検査に必要な設備が整備されているか。	4	施設使用割当て表、教育機器備品管理台帳、予算書
6-4	動物に協力してもらえる実習室 及び 必要な動物 が備わっているか。	4	施設使用割当て表、動物管理台帳
6-5	自己学習に必要な図書室 ないし 図書スペース 及び コンピューター が利用できる環境が整備されているか。	4	校舎案内データ、図書管理台帳、学生ラウンジ・図書室 利用規定
6-6	学校の施設や備品等は、定期的に管理・点検されているか。	4	修繕・備品等 中長期計画データ、予算書
6-7	実習室等の学校施設や設備の利用割当て（スケジュール管理）が明確になっているか。	4	施設使用割当て表
6-8	海外研修制度はあるか。また、その際の学生への指示・教育は十分に実施されているか。	4	海外研修 案内データ（2019年度・2020年度）、海外研修 報告・改善書（2019年度）

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 14:10 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

7. 学生の受け入れ募集		評価	エビデンス
7-1	学生募集活動は適正に行われているか。	4	学校案内書・募集要項、入試・学費説明会説明PP、情報公開（様式4、プライバシーポリシー）
7-2	学納金は妥当であるか。	4	情報公開（財務）、学費の比較資料（同分野 他校の学費情報 等）
7-3	特別な対応が必要な学生への対応を定め、共有しているか。（身体的事項や精神的事項等）	4	入学相談室対応マニュアル、留学生対応マニュアル、進学ご相談カード（カルテ）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組むとともに、「学費比較に関する資料」は定期的に情報を収集・精査する。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム④ 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

8. 財務		評価	エビデンス
8-1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4	情報公開(財務)
8-2	予算や資金収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	監査報告書、理事会・評議員会議事録、情報公開(財務)
8-3	財務について、会計監査が適正に行われているか。	4	監査報告書
8-4	財務情報の公開の体制整備はできているか。	4	財務情報公開規程、学校HP(画面の画像)

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ~ 13:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。

9. 教育の内部質保証システム		評価	エビデンス
9-1	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	4	監査報告書、官報（職業実践専門課程の認定）
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3	個人情報保護規程、個人情報保護規程に関する事前確認リスト
9-3	自己点検・評価の実施と課題の改善を行っているか。	4	自己点検・評価委員会 議事録、学校関係者評価 報告書、学園本部会議 議事録
9-4	自己点検・評価の結果を公開しているか。	4	情報公開（自己点検・評価の報告）
9-5	教職員の職務記述書を作成し、これらを適切な期間ごとに見直しているか。	4	職務記述書、教職員面談記録（SCシート）
9-6	評価目標 及び 想定される評価範囲 を整理し、記述できているか。	4	授業参観評価表 一覧、授業参観評価表（講義形式・実習形式）
9-7	教職員に対する評価方法・スケジュール・評価の仕方等が書類として文書化されているか。	4	学校運営指針（GB）、学園 年間スケジュール、教職員 SCシート

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 【9-2】（3/4評価）について、個人情報保護規程の整備 及び 個人情報の保護に係わるセルフチェックの実施等の取り組み が行われていることは評価できるが、個人情報の保護は年々その重要度が高まり続けていることからさまざまな取り組みの拡充が必要と考え、3評価とする。
- 【9-7】（4/4評価）について、本内容の主な取り組み手段である「授業参観による他者評価とフィードバック」を中心に、With コロナ時代 を見据えた継続可能かつ有用な取り組み方法の検討を進める。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:00 ～ 13:50 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。
- 【9-7】（4/4評価）について、エビデンスの追加を提案する。

10. 社会貢献・地域貢献		評価	エビデンス
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励や支援、地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む。）の受託等を積極的に実施しているか。	4	生涯教育・社会貢献計画、桜木小学校ふれあい動物園 報告書、ムサシトミヨ分譲依頼書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 13:50 ~ 14:10 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

11. 国際交流		評価	エビデンス
11-1	留学生の受入れや派遣について、計画的に活動するとともに、在籍管理等において、適切な手続き等を行っているか。	4	留学生用募集要項、入国管理局への報告書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム④
→ 【監査日時】2022年6月7日(火) 14:10 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

■ 國分 達夫 氏（東京実業高等学校 校長）（東京都立 晴海総合高等学校 元校長） 【 高校等評価委員 】

- 【4-3】「入学者に対する卒業率はどうか。」という設問があり、過去3年間の実績が95%以上であるという4評価の指標を満たしていないため、3評価であると説明があったが、卒業できなかった学生に共通することや状況を説明いただきたい。
- 私は現職の前に保育系の大学に勤務していた。保育士を目指す志望動機として、「子どもがかわいいから」「子どもが好きだから」という安易な気持ちで4年生の児童学部を受験する学生もいた。そんな思いで入学した学生は、人の命を預かる責任の大きさや大変さを十分に理解しておらず夢だけを持っているため、実習に行くたびに心が折れてしまう。
- 最近の学生は、心が折れるとすぐに学校から離れようという意識になってしまう。引き留めようとしても退学してしまう状況であるならば、やはり入学時にしっかりと目的意識を持たせることが重要であり、それに伴い、入試を工夫する必要があると思う。入試の際に目的意識を確認し、確認できない場合は突き返すような厳しい指導をしながら学生を受け入れてきたという経緯がある。参考になれば幸いである。
- 受験形態が多様化することで、退学者を防ぐことができるような選考方法も工夫すればあるのかもしれないと思い、お話をさせていただいた。
高校から生徒を送り出す立場から専門学校を捉えるという観点であったが、保護者の方、現場で活躍されている方、卒業生の方のお話を聞いて、特に現場では人手不足で非常に苦勞されている状況が分かり、自分の目を開かされる思いであった。参加させていただき大変ためになり、これからまた高校の現場で生徒指導をする上で役立つ会議であった。
- 【4-3】「入学者に対する卒業率はどうか。」について、入学者に対する卒業率を上げるには、入学した時点での目的意識の高さが重要であると考え。これが低ければ、学ぶことの意義や学び甲斐が明確とならず、少しの困難で退学等への意識が高じてしまうのではないかと感じる。もちろん卒業率が95%とならない理由には様々あり、今述べたことが全てであるとは思わないが、近年では、大学入試改革が進み、つい先日の朝日新聞では、「大学入試の地殻変動」という特集で、入学してからの学生の成績は、一般入試よりも総合型選抜（旧AO入試）等の方が良いということ東北大学の過去4年間の入学後の入試方法毎の成績(GPA)の比較により述べている。「学びの意欲が強いAO入学者」ということである。副学長は、「一般受験により懸命に勉強して入った学生は入学した時点で一息つきますが、AO入学者はいよいよこれから大学生活が始まると考えます。大学での学びの意欲の差がスタートの時点ですでに出ています。」と語っている。このように大学入試方法の多様化の時代であり、貴校がどのような教育をするのか、それに応えてくれる学生をどのようにして確保するのがポイントであると捉えている。特に、学びの内容が明確である貴校においては、特色ある入試方法を導入して高い目的意識を持った学生を確保することも、4-3の課題解決への一助となるのではないかと考える。
- 【5-3】「学生支援」について、貴校独自の支援制度があると話があったが、その具体的な内容を知りたい。
- 動物業界を勉強させていただく非常に有意義な時間となった。また、それぞれの部門でご活躍の方々から実体験に基づく説得力のあるお話を聞いて大変に為になった。加えて、各委員からの質問や意見に対し、貴校が熱意を持って回答されており、学校の素晴らしさを感じた。
私は現在、私立学校を預かっているが、都立高校就任時は人事異動等による一定の風通しがあったが、私立学校は独自の世界があり、ある意味で閉鎖社会のようなものを感じている。そこに風を吹き入れるためには、様々な業界や教育関係者の話を受け入れていくことが必要である。各委員からいただいた意見に対して、下園先生は事あるごとに「教員に伝えます」と話されているが、そこに大きな意義があると改めて感じ、自己点検・評価は何のためにあるのかという原点に立ち返ることができた。各委員の皆さまの一言一言が貴校の先生方に響き、閉鎖的な部分が少しでも開かれた形となれば、本委員会の存在意義がますます高まるのではないかと感じた。

- 今年度の新入生は高校時代に新型コロナウイルス感染症により、学校での職業教育を十分に受けてきていないのではないかと感じる。これまで行ってきたことが通用しない、そこまでのレベルに達していないといった現状があるのではないかと。
- 【5-10】「高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。」という設問があるが、これはなかなかできなかったのではないかと感じている。これまであった標準的な方法も新入生に合わせて変えていく必要性があるのかもしれない。
- IAC東京校とIAC大宮校で比較して高校との連携に差があるか、あるいは昨年と比べて今年の新入生の変化に対して注力していきたいことなどあればご教示いただきたい。
- 高専連携(高校との連携)は現状できていないと感じるがどうか。
- 中退の状況として、以前ならば中退を考えている学生は教員に相談してきたが、最近はずでに中退を決めて申し出てくるという話があった。最近、企業の方から、高校新卒採用者の中には上司にも相談せず、いきなり退職を決めて申し出てくるという話を聞いた。甚だしきは、退職の仲介業者を介して突然退職届けを出してきて、本人と会うこともできなかったとのことである。世代の傾向だろうと思うが、それでも担任、教科担当の教員が中退に繋がる兆候を見つけ出し、対応することがより求められるのではないだろうか。
- 高校では新入生がそのまま全員卒業することは、奇跡に近いと言われている。ただ、嫌な思いを残して中退するのか、心残りがあっても辞めざるを得ないのか、納得して辞めるのか、その違いは大きいと思う。学校生活は良いが自分の考えてきたことと学ぶことが合わない、心がついていかないなど納得での退学は致し方ないと感じる。
- 他校の学校関係者評価委員を行った知人から評価委員会の状況を聞いたことがある。とても大雑把であり、知人は結果的にその専門学校は生徒に勧められないと考えるようになった。貴校は学校評価を極めて誠実にやっていると思う。今後もこの姿勢を堅持されるよう期待している。
- 大学関係者や都立高校の元教員たちと情報交換をしたが、大学の中退問題が取り上げられた。メディカルの特定の学科においては不人気で中退が多いそうである。また、専門学校の学校関係者評価委員を務めている先生がおり、「出席することに緊張する」というお話をされており、より良い教育運営に向けてしっかりと対応している専門学校は貴校を含め、他にもあることを認識した。
- 近年の専門学校は学生の面倒見が良いのに、なぜ学生は相談しないのか疑問である。相談すれば先生は親身に応えてくれるはずであるのに退学の結論を自分だけを出してしまう。もしかすると、現代の高校生は戦後、高等学校制度ができてから最も大人しい学生なのではないかという話がある。対応する先生方の苦勞をお察しする次第である。
- 情報交換会では、専門学校の社会的地位の向上を盛んに話されている先生がいた。高島先生からお話もあったが、動物看護師に関しては大学でも学科を作り、学生を集めようとしている。考えてみれば、専門学校に学科があって大学に学科がないというのは医学部などを除いて極めて稀になってきている。大学と専門学校の学科に差がなくなってきたり、大学に専門学校が食われ始めているのではないかと感じる。専門学校という教育制度の社会的地位の向上 及び 教育の質の向上 については、動物分野については是非とも貴校がリーダーシップを取り、行っていただきたい。動物分野の専門学校の集まりを作り、情報共有をしながら専門学校全体の教育のレベルアップ、そして社会的地位向上に結び付けていくことを望む。

- 私は県の獣医師会の会長もしているが、新型コロナウイルス感染症対策、動物愛護法の改正、マイクロチップ装着に関する制度化により、日本獣医師会も非常に混乱している。そのような中で愛玩動物看護師法も制定され、変化の年だと感じている。また、私は一般社団法人全国ペット業界でも仕事をしているが、第一種動物取扱業者及び第二種動物取扱業者の改定があり、その規制により来年6月から動物取扱業の資格を所持していなければ基本的にはペットショップやブリーダー等を行えないこととなった。この1～2年は国の様々な法律の変化に伴い、フォローアップしてもらいたい卒業生が多くいるだろう。
- 愛玩動物看護師は国家資格になり、試験対策の卒後セミナーもされており、随分とフォローアップされていると見受けられるが、開業する場合やペットホテルで働く方などに向けて動物取扱業に関するフォローアップを行うことは割合ニーズが高いのではないだろうか。
- 一方で、どこまで卒業生のフォローアップをする必要があるのかと思っている。私の場合、獣医大学卒業後は一度も学校からフォローアップをされたことはない。自分自身で学ぶ姿勢を持つ社会人を育てることが本来の教育システムであり、卒後教育といえば学会や協会に任せるものであると思う。
- 卒業してから10年、20年とフォローアップし続けているとおそらく莫大なコストがかかる。反対に、卒後教育の分野を立ち上げて有料とすれば学校としても収益性が上がる。ひたすら感情論で、卒業生を無料ですべて請け負うというのはあまり賛同しかねる。
- アニコム損害保険株式会社など人材派遣に取り組んでいる企業は様々ある。貴校でもそういった分野に参入し、卒業生を集め、人材派遣として学校で就職活動を指導するなど、将来的なビジョンを持って取り組みをされた方が良いのではないかと感じる。そしてフォローアップによる再教育によって、アップデートされた知識を持った者を提供できるとなれば、多くの人材派遣があっても別段、貴校の卒業生が欲しいと声を掛けられるようになり、貴校の強みになるのではないかと考える。
- この自己点検・評価は、専修学校ガイドラインなどに添った内容と思われるが、同業他校でも同じ評価法を行っているのか、それとも独自の評価法か。また、この評価は公表されるのか。もし評価法が同じであれば、他校と比較できると思う。大変素晴らしい評価になっていると思うので、入学を考えられている学生や保護者への良いアピールとなり、貴校の強みになるのではないかと感じた。余談であるが、点数として、3点、5点、10点満点はよく見かけるが、4点満点は初めて見た。4点と書いてあると5点に満たないと思ってしまった。
- 入学者に対する卒業率の項目についてだが、4評価の指標が卒業率95%以上とのことから貴校の評価は3であるとご説明いただいた。大学とは一概に比べることはできないだろうが、入学者が全員卒業するという方が異常な気がする。個人の環境の変化や将来像が変わるなど、貴校の体制とは別途の事由により退学という道を選択するのも当たり前のような気がする。大学でも担任制が敷かれ、学校に来ない学生には担任が連絡をするという高校生のような教育体制になっていることは承知しているが、個人の問題と学校の問題を分けて考える方が良いのではないかと感じる。例えば、学生本人の夢が変わり、貴校を退学し、他校に入学するという道を選択したのであれば、それはそれで良いことであり、貴校の評価が下がる理由にはならないと思う。
- 法改正や制度改正の際の案内やそれに対応するセミナー等の開催は大変結構なことと思うが、魅力的な有料のセミナーの開催や人材育成、キャリアチェンジ等への対応も追加されると、卒業生も満足でき、貴校にとって一つの継続可能な事業として位置付けることができるのではないかと感じる。また、アフターフォローが良い学校として知れ渡れば、保護者も安心され、貴校の魅力の一つになると思う。
- 愛玩動物看護師国家試験には受験区分があり、受験までの流れが異なる。旧教育課程カリキュラムを学んだ者や動物看護分野の専門学校を卒業していない者は現任者ルートとなり、動物病院等での実務経験が5年間以上保有することの証明書の提出が必要であり、指定講習会を受講した後に予備試験に合格することで国家試験を受験することができる。指定講習会はオンデマンド形式にて開催されており、国家試験を受託している日本動物看護職協会と動物看護師統一認定機構が実施している。指定講習会の受講中は画面上で顔認証が求められるようになっており、エビデンスの担保ができています。教科書はエデュワードプレスやファームプレスなど様々な出版社で用意されている。

- 日本大学など、大学の獣医学部の中に動物看護師コースが開設されており、各大学は愛玩動物看護師の養成に注力されている。歴史的に見ると、動物看護師は社会的なニーズがあったが、低賃金・重労働・職務内容の難しさ等の理由から専門学校や無認可校において廃校に至った経緯も見受けられるが、時代が変わり、国家資格化によりまたニーズが増加傾向にある。国家資格化したことで動物看護師の人数が減少し、必然的に給料は上がると推測できる。また、獣医師の指示の下、治療も行えるようになるため、即戦力として重宝され、低賃金問題は改善されるのではないかと。さらに労働環境で言えば、国の働き方改革により、当病院では数年前から朝と夜の診療を30分短縮している。一概には言えないが、動物病院は昔と比べれば早く帰宅できるようになっている。

- 動物取扱責任者の資格は改正されるたびに犬猫の飼育数が減少している。前々回の改正では、自己飼育しネットを介して販売することが禁止され、ホビーブリーダーが大幅に減少した。犬猫を飼育すること自体が虐待であるような考えを持つ方がおり、法令を遵守しているにも関わらずペットショップやブリーダーが悪人のように非難される現状に違和感を覚える。動物愛護施設等ではペットショップは必要ないとの声も耳にするが、ブリーダーがいなければ日本の犬猫はいなくなってしまう。少子高齢化で犬の飼育数は激減し、猫ブームと言えども一時のピークからは減少しており、業界として末広がりとはいえない。犬猫との生活は人に良い影響を与えているというデータは数多くある。そこに焦点を当て、犬猫の飼育を促し業界を盛り上げていく必要がある。

- あらゆる現場で人手不足の状態である。動物病院の動物看護師、トリマー、一部ではトレーナーも足りないと言われているので、ぜひとも卒業率を100%にさせていただきたい。また、卒業生との繋がりが紐づいていかないという話もあったがその改善を望む。
- 女性であれば、結婚して職を辞めたとしても、育児の手が空いてきた時にまた職場に戻る仕組みを作り、長きに渡って業界で働くことができるような仕組みの構築が必要である。
- 人手不足により、辛い思いをしながらも懸命に働いている方も非常に多い。この現状を変えていくためにも多くの方々にこの業界で活躍していただきたく、貴校の卒業生を介してお力添えいただきたい。
- 以前、業者として学校に出入りしていた時に感じていたのは、学生の皆さんがどこで出会っても挨拶をしっかりとしていることであった。他校でも挨拶ができてい学校はあるが、休憩中で友人同士複数で会話をしているも、きちんと挨拶をして素晴らしいと感じていた。就職したら、一番に挨拶、クライアントやお客様とのトーク力、聞き取る力がとても大切になり、それらから信頼を得ることができると感じる。現場は動物病院もトリミングサロンも人手不足ばかりである。低賃金や重労働、職離れも多い。中学校の教師である知人から、動物業界に興味がある生徒がいるが、親に低賃金だと反対されているので業界からQ&Aに答えて欲しいと依頼され、話をする機会をいただいた。その時に「トリマーさんには先生と呼ばれる方たちがいて、お弟子さんと先生のような関係が作られていくことがある」と話をしたところ、実務以外にもやりがいを感じる可能性がある持てたと大変興味を持ってもらうことができた。また、サラリーマンのように定年がないため、自営等で長く仕事をすることもできるとお話ししたところ、親と話す材料ができたと言ってくれた。女性は結婚とともに離職し、復帰しないケースも多いと思うが、人手不足もあり、時短のパート等でも雇用は広がっていると思う。そのような長い先々へのお話もどこかで取り入れていただき、この業界で人生設計ができる目標を立てられるようになることを望む。
- 国家資格となる愛玩動物看護師は、現場での活躍が期待されているが、トリマー同様まだまだ給与面が追いついていないと感じる。国家資格取得者たちは、動物病院の看護師のみならず、ペットの高齢化に伴い、在宅看護も増えていき、フリーの動物看護師として収入を得られるようになるかもしれない。また、公務員としての需要も出てくるのではないかと考える。様々な分野へと可能性が広がることを期待する。
- トリミングの世界では、時間を作ろうとしてもスケジュール管理が上手くいかなかったり、技術的に時間を要したりと、結局仕事が終わるまで何も食わず飲まずとなってしまうことが多いのではないかと感じる。そういった体に負担をかける業務を続けることで、体を壊してしまう人も聞くと聞く。店舗が考慮しなければならないことではあるが、いかにして時間を作るかということを学生のうちから意識させることは長く仕事を続けていく上で大切なことであるとを感じる。
- 愛玩動物看護師を養成する学科は国家資格化に伴い、準備段階から大変な思いをされているだろうと感じた。どの程度の人数が動物看護師になれるのかという期待と不安がある。同時に、現場の動物看護師たちはどのようにして時間を作り、資格取得を目指すのか気掛かりである。毎日1時間、週に2回など少しずつでも1年間かけて学びを継続し、国家試験を受験しようという気持ちになれるような、対象者を卒業生に限定しない仕組みの構築を期待する。

- 学校が自己点検をしながら学生のことを思って活動しており、また保護者の思いを大切にいただいていることに卒業生として嬉しく思うとともにとても安心できた。
- 動物看護学科の卒後セミナーを実施しているとのことだが、それ以外の学科でもセミナーを実施しているのか。現場にいるとその場で見聞きする経験や意見も多くあると思うが世界が小さくなっていくことが気になる。学校から他学科の卒業生に対しても様々な情報を提供いただければ、そこから成長にも繋がると思う。
- 私の勤務先にドッグトレーナーは15名ほどおり、去年は貴校から3名入社しているが、その者らも卒業後のセミナーが開催されていることを知らず、認知されていないことをもったいないと感じた。卒業後も学校に関わっていけるような仕組みがあれば卒業生も誇りに思えるだろう。次回セミナーがあれば私もぜひ参加させていただきたい。
- 卒後セミナーの存在自体があまり卒業生の中で浸透していないようである。「就職後もスキルアップをしたい」「最新情報を収集したい」という声は、卒業生からも多くあると推察する。本委員会の場でも「卒後サポートをどこまで行うのか」というご意見もあったが、現段階でセミナーを実施しているのであれば、今以上に広くSNS等を活用し情報発信していただきたい。また、卒後もこのようなフォロー体制があることは、専門学校を選択する際のアピール要素に繋がると考える。
- 動物愛護管理法が変わり、動物取扱業の取得が以前よりも厳しくなった。以前は動物取扱業の講習を受け、申請をすれば取得できたが、今では専門学校の卒業証書もしくは資格が必須となっている。千葉市に確認をしたところ、学校法人シモソノ学園の卒業証書だけでは認められず、履修証明書の提出を求められ、卒業時の取得資格も対象外と返答されてしまった。動物の専門学校の中でも歴史がある学校なのに認められないことに少し驚いた。今後、シモソノ学園の卒業時の取得資格でも動物取扱業等が申請できるようにすることは可能か。
- 前回の委員会に続き、様々な立場の方のご意見を伺い、学校運営・教育活動に活かしていこうとする姿勢や取り組みは卒業生として大変嬉しく感じた。在校生や卒業後のフォローについてご意見が出てきているが、私自身、在学中は先生や友人との繋がりが大変深く、影響を強く受けていた。在学時は学校から発せられる情報が全てであり、卒業後により学校で学ぶことが動物業界の全てではないことを知った。動物業界の最新のニーズや知識・技術を積極的に取り入れていかなければ卒業後のギャップとなる可能性もある。学校で当たり前前に習っていたことが不意に違うとなった時、そこから周りに追いつくためには苦労するだろうし、ギャップにより退職に至る場合も考えられる。
ドッグトレーナーの話になるが、昔の専門学校は訓練所寄りの教育内容が多かったが、今では訓練所というよりも、飼い主にとって我が子のような存在である家庭犬に対してトレーニングすることが多くなっている。インターンシップ実習を受け入れた際に、急に激しく犬を叱り始めたり、初対面の犬に対して掴みかかったりする学生が稀にいる。「学校で先生がそのように対応していたから」・「在学時に自分の担当犬を強めの当たりでトレーニングをしていたから」など学生から話を聞いた時に、自分の犬と他人の犬を育てるのでは大きく意味合いが変わってくることを理解していないのだと残念に感じた。その時々時代に合ったニーズを理解し、先生方もスキルアップしていただければ、現場とのギャップも埋まっていくと考える。

- 【1-3】十分に保護者へ周知されていると感じる。学費や公的奨学金の金銭面については、学生本人から保護者へ共有されているため、現時点で支障はない。ただ、連絡共有が上手くされていないと感じることもあるがこの原因は学生本人の伝達不足にもある。学校と保護者間での誤解を生じるトラブルに繋がる事案もあるので、最低限の共有は必要な点であると考え。
- 【2-1】・【2-6】評価は妥当である。校舎・教職員共に人を惹きつける魅力が備わっているように感じる。オープンキャンパスでは複数回伺うことがあったが、特に教職員の皆さんの説明力・授業運営力に能力の高い人材が集まっている印象を受けた。
- 就職活動について、動物分野以外の就職活動の動きを制限することや業界就職への強いこだわりはあるのか。
- 【4-3】卒業率（中途退学）については、コロナ禍もあり難しく課題の多い点であると私も感じている。私自身が専門学校の担任教諭の立場でもあるので、現在意識している点や工夫している点は下記である。
- ① 担任教諭は独自に所属クラス学生のカルテ(ノート)を作成。ノートには、各学生の「出席(遅刻)状況」「学修記録(成績不良)」を記載し、意欲低下等が危ぶまれる学生から優先的にランダムに声をかけ早期に対話時間を設けている。
- ② 「面談」というワードを使うと学生が気構えてしまい本音が引き出せない。5月GW明け頃より昼休みを使って、1名に約20～30分程度で対話時間を設けている。(放課後や休日は学校拘束時間外のため抵抗感を持つ学生がいる。)
- ③ 国家資格である「歯科衛生士」は、専門知識も多く勉強についていけない学生も生じる傾向にある。対話のなかで、特に勉強についていけないアラートを示した学生には、個別に夏休み期間を利用して補講による学習サポートを行っている。
- ④ 特に現在の専門1年生は、高校時代にオンライン授業が日常的に行われ、また、体調不良を申し出れば簡単に欠席や早退が認められることを知っている世代のため、自身で設ける欠席判断のハードルが低い傾向にある。
- 【6-2】防災に関する備えは大切である。特に今の学生世代は、東日本大震災を小学校低学年時に経験しているので、私たちに比べ地震の言葉そのものに過敏に反応する者もいる。パニックにならない配慮をする大切さを感じる。
- 犬舎当番で遅い時間に完了した際、学生の着替えは男女いるため、主に化粧室内で行っていると娘から聞いた。個人によっては長時間かかる学生もいるため、着替え待ちをすることでの帰宅時間が遅くなるのが少し気になっている。学生たちのユニホームから私服へ着替える際の環境改善を望む。例えば、教室内に上から吊るすロールカーテンやアコーディオンカーテン等で簡易的な着替えスペースを作り、男女が同スペースに居ながらも複数名が同時に着替え可能とするなど更衣環境を検討してみてはどうか。
- 夏期の長期休みを利用して補習授業や自主学習などの取り組みはどのようになされているのか。
- 私も専門学校で教員をしているが、貴校の先生方が教育熱心で、学生の対応として様々な活動をされていることが分かった。OCに何度か参加させてもらったが、先生方の声の音域が聞きやすく、強弱のつけ方、間の取り方が素晴らしい。在学生在が勉学に打ち込み、卒業生も活躍できるのも先生方の日々の賜物であると感じた。